



なかやまい さ お
中山伊佐男さんが語る

富山大空襲

4

高校の生物の教員をしていた1981(昭和56)年ごろのことです。高木敏子さんの「ガラスのうさぎ」が出版されました。12歳で東京大空襲にあい、家族4人を失った体験をつづった物語です。

自分の体験とも重なり、読み終えた後、高木さんに手紙を書きました。そうしたら高木さんから連絡がきて、同じ富山大空襲を被災した奥田史郎さんを紹介していただきました。その後、3人で空襲体験を語る座談会を行い、子どもの目を見た戦争の証言を高校生向けに1冊の本としてまとめることになりました。共著の「八月二日、天まで焼けた」が1982(昭和57)年に出版されました。

その翌年、市民グループがアメリカ軍の資料で八王子の空

襲を調べているという小さな新聞記事を見つけました。はっとしました。空襲に関して、攻撃した側のアメリカ軍に細かい記録が残っていることを知ったのです。三十数年経っても、どうしても解けない疑問がありました。何のために母と妹は焼き殺されなければならなかったのか。すさまじい焼夷弾の雨が降らせた側からあの日をもう一度見るとどうなるのか。

かろうじて命をとどめたわたしは、富山大空襲で亡くなった多くの人たちに、そのことを報告しなければならぬと思いました。

それから、東京都内の国会図書館通いが始まりました。アメリカ軍が公開したぼうだいな機密資料の中からマイクロフィルムに納められた富山大空襲に関

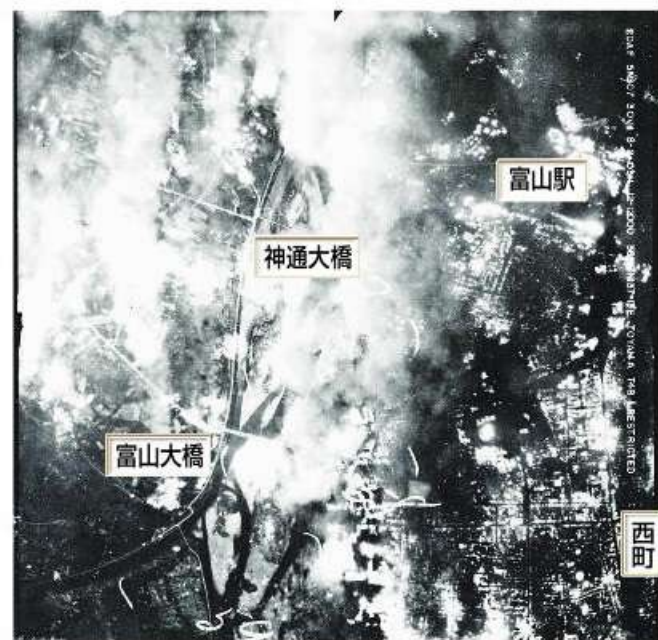
飛来したのは182機

する報告を見つけ出すのは、決して簡単ではありませんでした。仕事の合間を見つけて作業し、2年ほどかけて富山に関する資料を翻訳することができました。

空襲の規模について、戦争中

の日本の軍部「東海軍管区司令部」の発表では、8月2日未明に富山上空に飛来したアメリカ軍の爆撃機B29は「約70機」で、そのまま公式の数字とされてきました。みんな実感として、もっと多かっただろうとは思っていたのですが「70機」がずっと一人歩きしていたのです。

米軍資料によると、富山に飛来したのは182機で、このうち爆撃したのは174機でした。



1945年8月2日午前2時11分にアメリカ軍が撮影した富山市の航空写真。中心部はほぼ焼き尽くされている(中山さん提供)

3倍近い多さだったのです。富山のほか長岡、八王子、水戸の4カ所などを空襲した8月1日と2日は、日本各地の都市爆撃の中でも、最も出撃数の多かった残ぎゃくな空襲だったことがわかりました。当時のアメリカ軍のスポークスマンは「航空戦史始まって以来、最大の攻撃を行った」と述べていました。

☆毎週火曜日に掲載します

学ライズ



作・和田佳純、向井陽菜、中波時歩(高岡工芸高校デザイン・絵画科3年)